

こけしコンクール「第16回写真コンクール」作品募集



▲第15回写真コンクール特選
「日常でのヒトコマ」

こけしを題材とした写真であればどんな写真でも結構です。皆さん、ぜひご応募ください。

●応募資格 アマチュアの方

●応募規定

未発表の四ツ切り（ワイド四ツ切り可）カラー・白黒写真、デジカメA4サイズ（組み写真やスライドは応募できません）。1人2点まで応募可能。入賞作品の

著作権は主催者に帰属し、応募作品は返却しません。返却希望の場合は、返送料（切手140円分）を同封ください。

●応募方法

商工観光課や白石駅観光案内所に備え付けてある応募用紙に必要事項を記入し、作品ごとに裏面に添付して応募ください。※応募用紙は、市ホームページからもダウンロード



▲第15回写真コンクール準特選
「散歩道」

ダウンロードできます。

●賞

特選1点・準特選2点【賞金・記念品】

入選2点・佳作3点【記念品】

●応募期限 4月22日（火）必着

●作品展示

全作品を全日本こけしコンクール会場へ展示します。



▲第15回写真コンクール準特選
「馬子に引かれて輿入れに」

弥治郎系のこけし工人に2人が仲間入り！

こけしコンクール会場に 来て・見て・感じて！



よしの としひろ
吉野 稔弘さん



とみづか ゆか
富塚 由香さん

平成23年に市の緊急雇用創出による地域人材育成事業の募集で、吉野稔弘さんと富塚由香さんの2人が弥治郎こけし村での修行を続け、平成26年3月、弥治郎系こけし工人として仲間入りしました。

吉野さんは佐藤英雄さん、富塚さんは小倉勝志さんに師事。その他にも新山実さん、新山民夫さん、新山吉紀さん、星定良さんなどから弥治郎系のこけしの伝統的な技法を学びました。

「東日本大震災の後、佐藤英雄さんから声を掛けていただき、弥治郎に住んでいるので、生活の一部として慣れ親しんできたこけし製作に携わろうと考え弟子入りしました。しかし、『見る』と『作る』は大違い。こま挽きを1年半、その後、こけし作りがスタートしましたが、思うようにできなかったり、納得がいかなかったりして、くやしい思いをした時期もありました。たくさんの方の工人さんたちに支えられたお陰で、3年間続けることができました。伝統の型を守りながら、人に愛されるこけしを作っていきたいと思っています」と吉野さん。富塚さんは、「高校の先生からの声掛けがきっかけ。たくさんの方の弥治郎系の工人さんたちから、こけし作りのノウハウだけでは

なく、道具を調整する技術などを学び、少しずつ自分が作りたい作品が作れるようになってきたような気がしています。伝統を守りながら、オリジナルの作品も作ってみたいと思っています。師匠の小倉さんからまだ教わっていない技法もあるので、これから一歩ずつ歩いていきたいと思っています」と話してくれました。

弥治郎こけし村で、2人の指導に当たってきた新山吉紀さんは、「時には本気で叱ったこともありました。2人には、こけしを作るだけでなく、お客さんとの会話の大切さを伝えてきました。まだまだ伸びしろがある2人。弥治郎の雰囲気が漂う作品を世に出してほしいと思います」と笑顔。続けて星さんは、「多くの工人から技術を学んだことで、2人は人間的にも大きく成長したのではないかと思います。自信を持ってこれからも作品を作り続けてほしいと思います」と話してくれました。

こけしコンクールへの出展に向け、作品作りに励んでいる吉野さんと富塚さん。2人は、弥治郎の豊かな自然と風土に培われた「伝統こけし」を守り続けてきた人たちに支えられ大きく成長。工人としての人生が今、スタートしました。

こけしコンクール・スペシャルイベント

歴代内閣総理大臣賞の特別展示

歴代の内閣総理大臣賞受賞作品を特別展示します。

コンクールの歴史を感じるとともに、工人さんたちの素晴らしい伝統の技や優れた技術の継承に触れ、こけしの魅力を再認識することができます。この機会をお見逃しなく！

第55回全日本こけしコンクール
内閣総理大臣賞



地場産品まつり



白石市や近隣市町などの地場産品を販売します。ぜひご利用ください。

「全日本こけしコンクール号」運行

5月3日、仙台駅8:23発→白石駅9:10着の東北本線普通列車にコンクールのヘッドマークを付けた「全日本こけしコンクール号」が運行されます。鉄道ファンのみならず必見です！

※上記のほか、白石を代表する郷土の味覚「白石温麺」を提供するお店も出店します。目で見ても舌で味わって白石の春を楽しんでください。

こけしコンクールを楽しむQ & A

Q. こけしは木だけでなく、銅やガラスなどの素材を用いたものも出品可能なのですか？

A. こけしの定義として、ロクロを用いた木製のものとしています。

Q. 審査品が部門別に分かれていますが、どう違うのですか？

A. 1部：伝統こけし（系統的な伝統性があり師弟関係が明確である）
 2部：新型こけし（量産可能で市場性がある）
 3部：創作こけし（一品製作芸術的価値がある）
 4部：木地玩具（ロクロ技術を主体とした玩具）
 5部：応用木製品（ロクロ技術を主体とした日常生活用品や木製品）
 この5つの部門に分けて出品してもらい審査を行います。

Q. 伝統こけしは系統に分かれていますが、それぞれどのような特徴があるのですか？

A. 伝統こけしは、10系統に分類されます。

●弥治郎系 頭が大きく、頭頂には豊かな色彩で二重三重のロクロ模様を描くところに特徴がある。胴にも幅広いロクロ模様や、花とロクロ模様を組み合わせたものなどを描く。

●遠刈田系 頭に描く放射状の手絡や三日月形の目、胴模様に菊・梅・木目や、独特な色が組み合わさったロクロ線に特徴がある。頭は大きく、胴は比較的細い。

●山形作並系 胴は非常に細いのが特徴だが、現在では少し大きく作られるようになってきている。肩に段があるかロクロ線が多くひかれている。胴模様は梅や桜を圖案化したものが多いが、作並ではカニに似た簡単な菊を描いている。

●鳴子系 はめ込みの形態に技巧をこらし、頭をまわすとキュッキュッと音が鳴る。胴は太いが中程で少し細くなり、肩は張っている。頭に水引手と呼ばれる独特の前髪を描く。胴模様は特有の菊・楓・牡丹などが多い。

●蔵王高湯系 基本形態は遠刈田系にならっているが、土湯系工人の影響も付加され系統が確立された。胴は太く重量感に富み、胴模様は重ね菊や桜崩し、牡丹などで、色調も独自の味わいがある。

●肘折系 遠刈田系と鳴子系から技術と表現が導入されて確立した系統。形態は鳴子系に近く、描彩は遠刈田系に近い。直胴で太く肩に段がある。色彩・表情ともに個性的で強烈な印象を与える。

●木地山系 鳴子系から分化したといわれ、形態は造りつけである。胴模様は写実的な傾向が濃く、菊・前垂れ・縞・梅鉢などの着物姿に特色がある。

●土湯系 頭頂に蛇の目模様を入れ、かせを描き、髪飾りがないのが特徴。直胴でロクロ模様を基本とする。特に返しロクロという技法は、ロクロ線が屈折して稲妻形に表現される独特な模様である。

●南部系 岩手県一帯に「キナキナ」と呼ばれるおしゃぶり（木地玩具）があった。肩が丸く胴がくびれ、頭を振ると揺れる無彩の玩具であり、これが発展し南部系こけしとなった。現在は描彩を施さず木肌の美しさを観賞するものと、鳴子や遠刈田系の影響を受け描彩を施したものの2種がある。

●津軽系 表現様式が多様で、伝統性よりも個人差が目立つ。泥臭さを感じさせるもの、ねぶた絵やアイヌ模様から影響を受けたものなど、津軽の風土色が濃い。

Q. こけしコンクールは賞の数はいくつありますか。そして、最高賞はどの賞ですか？

A. 62の賞があります。最高賞は「内閣総理大臣賞」。入賞作品は会場に展示しますので、入賞した工人の熟練の技をぜひご覧ください。